

解答例

自然環境の違いは地域の景観や土地利用の基盤を形成する。例えば日本とサウジアラビアを比較すると、日本は中緯度のモンスーン地域に位置し、温帯湿潤気候のもとで降水量が多く、森林が国土の大部分を占めている。国土は山地が多く平野は限られるが、河川水に恵まれるため沖積平野では水田農業が発達してきた。また海岸線が複雑で良港が多いことから、沿岸部には港湾都市や工業地域が形成されている。一方、サウジアラビアは亜熱帯高圧帯の影響を受ける乾燥地域に位置し、広大な砂漠が分布し降水量はきわめて少ない。このため農業はオアシスや灌漑農業に限られ、自然条件は居住や生産活動に大きな制約を与えている。人文社会的な環境の側面からみると、日本では人口が平野部や沿岸部に集中し、大都市圏が形成されてきた。鉄道や高速道路などの交通網が発達し、工業やサービス業を中心とする高度に都市化した社会が成立している。また教育水準の向上や産業の高度化により、多様な経済活動が展開されている。一方でサウジアラビアでは、乾燥した自然環境のもとで伝統的に遊牧やオアシス農業が営まれてきたが、20世紀以降は豊富な石油資源の開発によって経済構造が大きく変化した。石油輸出による収入を基盤として都市建設やインフラ整備が進み、首都リヤドなどでは急速な都市化がみられる。このように自然環境の違いは、人口分布、産業構造、都市発達などの人文社会的環境の形成に影響している。

出題意図

地理学で重要な地域間の比較から、自然・人文の両面を論述する能力の有無を確認するために出題した。